

みなさんこんにちは。寒さのほうもだいぶ和らいできて、いくらかは過ごしやすくなりましたね！

今回は家って何のために建てるんだろう・・・？ そんなあたり前のごとをあらためて考えてみました。

私もこの仕事をして 16 年になりますが、これまでに当然このようなことを自分で考えて自分自身に質問しながら成長してきました。そこで今回は私なりに考えた『**住まいの条件**』と言うものをご報告させていただきます。これは私が今まで歩んできた建築人生から得られたものですが、私自身はこれまでの実務経験の 90%以上を現場監督というお客様に最も近い立場でやってきたので、この住まいの条件には、私個人の考えだけではなく、これまで私が担当させていただいたお客様全員から感じ取って得られた結果がここにあります。

勤めていた頃から引渡し後のアフ

ターフォローなども一貫してこなしていましたから、それらのお客様から感じ取ったものは、新築当初のワクワク感がある上っ面のものではなく、新築して数ヵ月後、数年後、そして数十年後になってみて実際にお客様がどのように感じ、そしてどのようになることが理想なのか？ あるいは理想だったのか？ということを追求してきました。

そこで今回は以前にも送らせていただいたと思いますが、マインドマップというものをつくってみました。これはまずタイトルを中心に配置し、そこから枝状にサブタイトルをもってきて構成するものです。

一度にすべての説明をするのは長くなるので、何回かに分けてお伝えしてまいります。私のことだから途中でほかの話題に変わっていきたりするかもしれませんが、そのときはどうぞお許してください。

第一話

環境への配慮

一戸の住宅を建てるには、とてもたくさんの資材を必要とし、同時にたくさんの廃材もでます。

それらの廃材はもうスグ行き場を失いつつあるというのにまだゴミを増やすような合成接着された建材が多くつくられているのです。というよりはそれら合成接着された材料は、フローリングや建具から始まり、現在では何と構造体までもがそのような材料になってきています。

それらの合成材料は食品で例えると安全性が十分に確保されない状態で市場に出回っている加工食品と同じで、表向きはリサイクル事業の一環としてつくられているようにも見えますが、現実的にはその場しのぎの操作に過ぎません。

今、日本の住宅に使用されている材木の多くは中国などの輸入品に頼っ

ているのが現状です。なぜ？ 狭いとはいえ、今の日本にはたくさんの杉山が放置され、荒れ果ててしまっているというほど材木が余ってしまっているのです。

日本と中国とでは物価も違えば当然人件費も違う、技術力も違う、もちろん規模も違います。このような状況下において中国から材木を輸入すれば当然日本よりも安く仕入れられます。

そして中国木材を多く使用するようになった今の日本の山の現状は年々深刻になり、他国である中国の発展に貢献してしまっている。

他国を助ける前にまずは自分の国をしっかりと立て直さなければ

そういう思いで私は家づくりを進めています。まずは素材的にも日本というのは気候風土に合ったとても素晴らしい材木の宝庫です。日本の材木を使うことで気候風土が活かされた構造体を作り上げることは勿論のこ

と、結果的に日本の山を救い、雇用を助け、日本経済の安定にも貢献します。

天然ムクの材木を使ってゴミ問題を軽減する

木には見えるけど実際は木ではない。そんな加工された材木がとても増えてきた今日ですが、それらは役割を終えて解体される際に、大きな社会負担となるのです。

本来であれば 100%天然の材木を使用して、それらを使い終わったときにはまた自然に帰すという循環型のサイクルが一番環境にやさしいと言えますが、悲しいことに現在では、中身はダンボールを圧縮したような素材を利用し、表面には印刷機から出てくる木目調の塩ビシートが貼ってあるようなものが多く出回っています。

これらの商品は、分離解体が難しく、地球環境を大きく悪化させます。

そしてそれらの代償は後世へと引き継がれ、お子さんがいらっしゃる方

はご自分のお子さんに直接降りかかる問題となるのです。

ひとりの社会人として、できるだけ日本に、そして地球環境にやさしい素材を家づくりに使ってあげて欲しいと思います。

気候風土に合った材木のメリット

今は食品にしても通常では明日までに食べなければ腐ってしまうような食材でも数週間、場合によっては数ヶ月間も食べられてしまう。そしてその中身には長い年月を経て立証された根拠のない化学調味料がたくさん使用されています。

材木でも同じようなことが言えますが、前述したようにプリンターから出てくるようなシート貼りのフローリングや建具などを使用すると、使用している当初はきれいだしそれほど違和感を感じませんが、使っているとどうしても本物の天然ムクのものと比べてしまうと存在感がまったく違ってきます。勿論それだけではなく、

本物は素材が素材だけに長期に渡って使用しても安定した役割を果たしてくれるので、結果的にはプリントされた材木の何倍もの耐久性を発揮し、結果長持ちするので省エネルギーにもつながってきます。

実際に5年前から私の庭で実験していることがあって、その内容とは、天然ムクの建具のミニチュア版をつくってもらい、その建具を無塗装の状態ですっと雨ざらしにして比較検討しているのです。プリントされた建具がどうなるかは想像できると思います。既に腐ってしまい、ひどい状態となっていますが、天然ムクの建具のほうは、雨染みはあるものの、まだ磨けば十分に使えるほどの精度を保って存在しているのです。

私はその建具を見るたびに天然ムクの木素晴らしさを実感しております。

今後家づくりを検討される方、そしてメンテナンスをされる方は是非こ

のあたりのことを踏まえてご検討いただければと思います。

今回は 10 個ある住まいの条件のうちの一つである『環境への配慮』をご紹介しましたが、予定ではあと 9 個あるので、この予定が狂わなければすべてをご紹介させていただこうと思います。

イメージとしては別紙『住まいの条件』のマインドマップで伝わりますが、今回のようにひとつの内容がとても深いので、今後もしも私が残りの解説を忘れてほかのニュースに走ってしまった場合には是非催促してみてください。

それではまた来月もよろしく願います！

平成 18 年 3 月 6 日
長澤 崇史